

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	磯山 あけみ
通学キャンパス			
論文題目	第2子を迎え入れる母親に対する準備教育プログラムの開発と評価		
審査結果(枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究は第2子を迎え入れるための母親に対する準備教育プログラムをインストラクショナルデザインによるADDIEモデルに基づき、準備教育プログラムを開発し、その効果を介入群(n=31)と対照群(n=28)の比較で検証したものである。教育プログラムは2回にわたる内容で、第1回：妊娠中期の準備教育の内容と方法であり、第2回：妊娠後期の準備教育の内容で、それぞれ60分の教育であった。教育の効果は、二元配置分散分析の結果、介入群では第1子が第2子に関心を示す行動が強化され、母親は2人の育児をポジティブに捉えられていた。開発した教育プログラムは経産婦に特化した2人の同時育児の適応を促す教育プログラムとしての一定の成果が認められた。</p> <p>これまでに、第2子を持つ母親への準備教育で実証されたものはなく、母親を対象に第1子と第2子の2人を同時に育児する為の知識や技術、態度の獲得が期待できる教育プログラムが開発されたことは、健やかな家族形成への支援につながると考える。本研究は倫理的配慮に問題はなかった。</p> <p>2. 審査経過及び口頭試問</p> <p>12月11日に初回審査を小田原キャンパスと大田原キャンパスとを遠隔システムでつなぎ、開催した。口頭試問では論文のテーマの適切性、デザインの妥当性、対象者及び対象者数の適切性、統計的処理の妥当性、図表の正確さ、研究の限界、現場での活用可能性について質問を行った。ほぼ、的確に回答できたが、一部不十分な部分もあり、わかりやすい論文構成に再編する必要もあったため、上記内容について、論文への追加説明及び修正を求めた。</p> <p>12月27日に修正論文が提出された。対象者数がやや少ないこと及び第1子の年齢の偏りに関する考察について記載が十分ではなかったため、再度論文の修正を求め、1月11日に修正論文が出された。的確に修正されていることを3審査委員で確認した。</p> <p>3. 合否判定</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 荒木田 美香子</p> <p>副 査 谷 浩明</p> <p>副 査 陳 霞芬</p>		